

日時：9月20日(火) 15時~17時

発言の属性： ○学生、●京都大学喜多先生、・教員、◎委員長、◆専務、■マスコミ等

◎ 先生の問いかけに対しての学生の生の声をお願いします。どうしても個別の話になるので、中々一般化できないかもしれないが、オンラインで学習以外に学べたスキルはあったか、個人として問題が生じたことがあったか、と言うことを中心に、個別の経験でも構わないので、話して下さい。

○岐阜大学地域科学部3年生で2020年度入学。インフォーマルな場でのつながりが特に20年度には無かった。レポートも他の人がどのレベルまで頑張っているのか分からないので、探り探りやって、このやり方が正しいのかも、他の人と確認できないことが大変だった。ゼミの先生からもオンライン授業の方が皆レポートの質が高いと言われた。多分他の人と比べられず、他の人もこんなもんか、このくらいでいいか、が少なく、他と比べられず、これくらいやっておかないといけないかなと言うことを自分の基準で頑張っている人が多いのが、自分の経験も含めて思ったので、共有したく発言しました。

◎ 先生の言葉ですと、相場感ですね。

●理系の学生はそれはあまりない。理系の科目だと答えが同じ問題を解くので。文系の学生だと、レポートがどのレベルを求めているのか分からなくてかなり苦労された。京大では法学部生がつかった。文系だとレポートで調べて文章を書くので、理系よりもつかったようです。

◎ さん、他と連携があったらもう少し手が抜けたかもしれませんか。失礼かもしれませんが。

○手を抜けたと言うよりも、他の人がどうやって授業を取っているのか分からなくて、今岐阜大も対面授業になって、ノートもPCでメモをとっていて、皆んなこんな感じで授業を受けていたんだと言うのは、対面だと分かりやすい。

◎ 先生、我々授業をやっている、どういう形で受けとめられているのか、聞いているのか。一生懸命ノートを取っている人もいるでしょうし、布団の中でパジャマで授業を受けている人もいるかもしれない。その辺が見えないのが、教師としてやや不安でありますね。

●私は息子2人が20年工学部3年生だったので、こんな受け方なのかというのは実感しました。実際1年生の子は凄い真面目だったなあと思います。情報の授業で正解があるので、割と苦労はかけなかったかなあ。

◎他の方どうぞ。

○ 大学3年生です。1年生の頃どんな感じだったか聞いていました。先程○さんも言っていたように、一人でやっているところまで詰めているのが分からない。うちの大学は真面目な学生は多いが、全部の授業を真面目にやろうとして、結構精神的に辛くなる人、自分もそうだった。1年生の頃は勉強頑張ろう、学習頑張ろうと思って、とてもやる気に満ちていて、オンライン授業になって、皆んながどういう感じでやっているのだろうか分からないし、教授からレポートして下さいと言われても、書き方ややり方もそんなに教えこまれていない。そういったものを学生の相互扶助の中でやっていくのかもしれないが、そう言う繋がりも無くてかなり苦しかった。個人的に絶対必要だなと思うのは、教授からのフィードバックは絶対欲しいなと思う。結構な先生が書いて下さるが、うちの大学が使っているシステム上、どうしても先生からのフィードバックを見る迄のアクセスの仕方が面倒臭い。使っているサービスによってフィードバックが見にくい所にもある。学生側は先生からどういうフィードバックが来ているかが分からないので、どういう改善をしたらいいのか分からない。そもそも見つけようとしないう学生もいるので、学びの質が下がってってしまう。点数だけを気にして、質の方までに目がいかないのが怖い、学んでいることになるのか。フィードバックは絶対必要だと思うが、それが見やす苦なると、教授と学生のコミュニケーションも取りやすくなるし、学生にとっても先生からフィードバックを貰えると安心感につながる。先生からも学生がどう授業を受けているか分からないということだが、学生からも同じ。一番最初のガイダンスの授業で、先生からの自己紹介が全然無い授業があって、この先生は誰なんだ？という得体の知れない感がある。オンライン授業だからこそ積極的に自己開示を、先生も学生も開いてしてもらって、そういった所からオンライン授業のインフォーマルなつながりも広がると思う。私からは、フィードバックのあり方とインフォーマルな交流の2点。

●教員も学生へ個別フィードバックをどこまで何ができるのか。後期に共通教育でpythonでプログラミングする授業をしています。教科書に書いてあるので、基本的に自習でできるはず、授業で簡単な説明だけして課題をや

ってもら。難し目の課題をやってQ&Aを反転授業の意味で使う。学生に課題を出して、次の授業までに必ず採点してコメントをつけて返す。宿題も出すがそれも次の授業までに必ず採点。プログラミングで間違っている箇所が多いので、ここは考え違いをしているよ、など個別にフィードバックをして次の授業を迎える。目茶目茶しんどい。私はプログラミングができるので、すべての学生が授業で出してきた課題を1枚のwebページにしたツールを作って一気に採点してしまう。手で採点するが、webのクリック数は極端に減らす。似た様な回答だと同じコメントをするのでコピペですむ。このツールは他の先生も使っている。どこにポイントがあるかの発想を切り替えながらやる。この授業は、コロナ前と後で殆どやり方を変えていない。オンラインでやれる授業を最初から準備していた。教え方も学び方もこれを経験としてうまく変えていければいいのかなあ。

○理想的、授業が充実していそうですね。

●面白かったのは共通教育の授業なんで、文系理系院生が参加しているが、合格率は大学院生が一番低くて、文系理系では変わらない。違っていたのは1年生が圧倒的に合格率が高い。サボる癖がついてないので、面白ければ真面目に取り組んでくれたんだなあ。2年生はサボる癖がついているので、2020年度は2年生の合格率は1年生よりはるかに低かった。真面目に勉強すればどこかでお返しがあるのかなあと思います。

○3年生でサボり癖があるので、改めて初心に帰って学習したい。

◎フィードバック自体はオンライン、対面に関わらず授業としては凄く大切。特にオンラインは関係性が薄いので、フィードバックはより大事になると理解してよろしいか。

●プログラミングやITは上手下手が人によってばらつく科目なので、引っ掛かっている所が人によってかなり違う。個別に対応することがそれぞれの人を伸ばすのに一番良い科目。学習した中身に対するフィードバックしかしていない。頑張れとか言わない。でも見てくれてる、自分をフォローしてくれてると思ってくれていると、やる気を失わずに済むのかなあ、と思います。

◎他の方からどうぞ。ご遠慮なく。LMSは大学によって色々。京大だとコロナ前は見向きもされなかったが、コロナになって急に皆さん使い出した、その良さも浸透した。ある意味コロナのもたらしたポジティブな面。

●さんからLiveアンケートで2つ質問。学生一人一人の経験なので、彼らが今抱えている問題に対してどうしたら良いのが問題になる、という問題の指摘がありました。確かに入学年次によって大きく違うけど、20年度入学生が一番つらい状況を抱えざるを得なかった。もう3年生で辛い、友達があまりできないまま就職活動をしなさいといけない。二つ目として、大学の組織や仕組み、これからのオンライン授業など、次の1、2年生にどのように改善していけば良いか。LMSでの授業数は減っていない。ZoomのLive授業は減ったけど、LMSは先生方も使いこなしてきた。こんな便利なものがあったんだと他の先生に言われた。使ってみたら良さがわかる。但し使い始めるのに割と敷居が高いシステムなので、強制的に使わないと使わない。そこは良くなっている。ただ例えばオンラインで学べると言うことの意味、それによってどこで学ぶのか、について大学は本気で考え始めてない。留学でアメリカのサマースクールなどは7月開催が多く、7月は(真田:日本は)授業なので、今までならアカデミックカレンダーをどう詰めようかだったが、もう試験の対応だけすれば、オンライン授業中継でアメリカでも受けられる、という発想を持つことはそう言うこと。ミネルヴァ大学などは、世界中を転々と動いて、場所を経験しながら、授業はオンラインで受けるので、凄く人気がある。どこで何を学ぶかの枠組みをそっくり取り替えられると言うことを、まだ大学は本気で考えて始めている。下手すると本気で考えないまま、元に戻しちゃ危惧もある。これは学生よりも社会からどう言うフィードバックをかけていただくかだと思う。インターナショナルな活動や、地方は進学率がかなり低い都道府県がある。東京で大学に行く感覚と全然違うことは理解して、しかも問題を抱えて若い人財が欲しいのは地方。地方で何ができるのかはあっていいのかな。

■一人一人の学生は色々あっても年次を重ねて、就活して社会人になっていく。特に今の3年生に対して見守ると言う委員会では何かできることはあるのか、あるいはこれからの1年生、2年生、3年生に対して、良い方向に持って行くのに何かできるのか、2つ視点があるのではないかと思った次第です。

●人と人との関係が希薄なのはつらいので、フォローしていかないといけない。一方で太平洋戦争を経験した世代や大規模災害を受けた人は、辛い目のなかで何をしてきたかみたいなのは逃れようのないものとして受け取ることもある。コロナもそうで、亡くなられた京都大学の総長もやられた長尾真先生は、こんな時ぐらいゆっくり落ち着いて勉強しようよ、という言い方をされていました。

■今現在の学生の悩みとか、就職を考える人にサポートなれることがあればいいと思う。

●長い目で考えて、ゆっくり動けば良い。世の中はせわしないですが、心の中ではゆとりを持って、他力の所は手を打つけれども、そこであまり強迫感にかられない方が良い。皆んながそうなんだと思っちゃえばいい。

■来年再来年でコロナ前入学の学生がいなくなる、コロナ後だけの学生だけになる。そこって結構大きなギャップが大学には生じるのではないだろうか。それは何なのか、本当に生じるのかは疑問もあるが、気にもなりました。

●一番は授業外の活動、サークルや学園祭などのノウハウが継承されていない。その代わり学生は時間もあるし対応力も高いので、全然違う姿を出す人もいるだろう。ただ従来のサークル活動は何年もやっていないのでできなくなっているのではないか。

◎一つだけ。どこでも学べる事は素晴らしい事だけれども、大学、学部など教育側が、ある理念の下に、しっかり何を提供するかがあって、それでどこでも学べる、が生きてくる。学生を教育に対する消費者だと見て、消費者が好むものを提供するという立場から言ったら、消費者が一番いい組み合わせを提供するのが教育の役割ですが、学生側にある種のモラルハザードがあるので、何をどのようにどんな授業を提供するか、留学なら留学、ボランティアをしながら大学の単位を取れるだとか、きちんとした理念があってこういったものを活かすのが大切だと思えます。この点先生はいかがお考えでしょうか？

●そうだと思う。が学生は一人一人学びたい動機が違うので、学生一人一人にとってのカリキュラムと大学がオファーするカリキュラムが二つ並び立つと思っています。キャンパスに日がな一日いて授業を受けなさいということではないことを、大学がどこにその価値を見出すか、学生個々人がどこにその価値を見出すか。海外に行くこともそうだし、地方に出て町おこしに参画するでもいいし、今自分の身をNPOに投じている子は多いし、ここに来ている学生も生協活動をしているので、むしろそういう中で、大学にこういう事やってよと言うぐらいでないといけなかなあ。両方がこのチャンスをどう生かすのかというように考えるべき。モラルハザードと言うことではなくて、学生も身につけたスキルで世の中に出ていくのだから。

◎そうですね、学生も授業を自分に役立つ授業を受ける権利があるので、どこでどう受けるのかと言うことを、もっと大学が柔軟にそれをきちんと受け止めて、提供する側はいつでもいいよという意味ではなくて、きちんと遠隔或いは遠隔を併用するとかは、きちんとした理屈、裏付けがあって提供すべきかなあと思えますが、ちょっと硬すぎますかね。

●ただ大学も自分が何の為に存在するのかにちゃんとクエスチョンを持っているのか。学問の体系があって、その学問体系を教授することから一步も出てないのだと、その学問要るの？と学生に思われた途端にアウトになってしまう。世の中で今こういうことをしないとイケないんだよ、との兼ね合いでカリキュラムを決めているのか？ということは思う所。プログラミング授業の半分は文系の学生が選択科目で取ってくれているけど、ここ1、2年学生の目つきが変わった。本気で学ぼうとしているいろんな学部の学生が増えてきた。キャリア上あったらいいなという人も多いけど、やっぱりコンピュータを使って何か面白い事をしたいと思っている学生が文系でもいるんだなあ。世の中が変わってきたと肌感覚として思ってますね。

◎ 先生何かご感想など。

・信州大教員で全国教職員委員長です。私は、学生全員にレスポンス、間違いをきちんと訂正するのができていない、よくない教員。質があってその場で応えるのは楽しいんですが、それを文書にすると時間がかかるので、同年齢ぐらいの教員は得意な人と苦手な人のスキルの差がある。コロナが無くなり対面授業になると、折角あるオンライン授業の利点が段々使われなくなる。学生アンケートでもオンライン授業がいろんな意味で受け入れられている面もある。学生に取って利便性のあるオンライン授業を、できるだけ有効に授業の中に取り入れていくのに、もう少し教職員が頑張らないと思うのだが、大学としてしっかりとやっていく必要がある。担当の教員にただ単に任せているだけでは進まないの、その辺り何か大学で良い事例があれば、先生から広げていただければ。

●コロナ禍でどう授業したの？という一番の実例が集まっているのは、国立情報学研究所のDXシンポジウムがあって、面白い取り組み事例が満載。最初は週1でどんな授業を行なっているのか昼休み挟んでやっていた。途中から2週に1回に減らし、最近は3週に1回。喜連川所長の熱意で継続している。組織的に予算つけてやっている取り組みもあれば、先生方が個別に手弁当でやっている取り組みもあって。テクノロジーを使うのが得意な先生はこんなこともあるよと教えて下さったり、語学の中で機械翻訳を使いながら学ぼうよとご提案されている事案もあったりする。検索もできるようになっているので、そういうところを見ればいいのかな。

・対面が苦手な学生がかなり多くいて、オンライン授業はそういう学生に良かった。そういう学生がオンライン授業が減るのに慣れる方策は何かあるのか？

●専門家ではないので言えないが、一人ひとりに合わせることに、社会として人々がコラボして成り立っている

事の折り合いをどこでつけるか、ということ自体理解してもらわないといけない。それがあまり強制的に嫌なことをやらせるという訳ではないけど、一方でフリーライダーのようになってもらってもいけないなあ。その人その人なりのやり方だけど、ゴールは理解してよという所からかなあと思いますね。

◎ 先生の方の医学では、手術ができない、実験ができないではいけないので、実技が必要。5G6Gが発達して遠隔で手術できるようになれば、それはそれで別の世界が広がる可能性もあると思うんですが、それはともかく医学は対面の重要性がある分野なのではないか。

・最終的には、患者さんや同僚と向き合わないといけない分野なので、対面の講義がかなり多くなっている。一方でオンラインになってもグループに入れない、連絡も取れない、オンラインになると余計にドロップアウトしてしまう人もいて。例えば他大学の例で、レポートを1週間書けばいい、相談も構わないことにしたが、メーリングリストなど出まわっていてもそういう中に入っていないのか？大体同じレベルのいいものができてきたにも関わらず、数人、枠に入らなかった学生もいた。多分それはオンラインがなくなっても変わらないのかな。そういうなかなかコミュニケーションが上手に取れない学生への対策は、どの学部に行っても大事なかなあと思います。

◎そこは分野に関わらずということで、今回の鈴木先生の回でも重要なこと。なかなか人との繋がりが、孤立してしまう学生もいるかもしれない。○先生、システム（眞田：Live アンケート）から何かありますか。

●早稲田大生協から、22年度で今の3年生に手が打てますかと言うことで、答えは持ち合わせておりませんが、コミュニケーションとってくださいね、としか言いようがないですね。今更サークルでもない年代になっているので。この2年間の経験はそれはそれでと言う落とし込みをしながら、未来に向けて何をデザインできるか、と言うことだとは思っています。

それから学芸大さんからは、レポートはWebですが、コロナ対面授業でも続いていますとそれはそれでポジティブな評価はしていただいています。電車の中で動画を見る人もいるというんですが、動画を倍速で再生している人がかなり多いので、それはそれで良いのかなあ。但し、自分が本当に学んでいるのか、と言う問いは持って欲しいなあ。オンラインの授業は紙のノートで取りにくい所がありますよね。ノートテイキングはどうするんだろうと言うのは、オープンクエスションになっている。僕らも答えを持ち合わせなくて、学生の指導もできなくて困っています。

早大生協からは、大学の費用はお金かけなくて良いのに、何かうまく改善できないの、と言うご意見をいただいています。私学は割とパキッと閉鎖したので、光熱費は減っているのですが、京大は逆にコロナ対策で、窓を開けたまま授業をしているので、逆に光熱費は増えているのです。これからどこにどういう費用をかけるのかは、大学経営の大事な所になってくると思います。本当にキャンパスのハコ物いるのか、と言う問いがじわじわ効いてくるような気がしますね。今ある物を無くしたからと言って、土地を売らない限りお金は入ってこない。ただ学生に対してどういう対応をすれば良いのか、が難しいなあと思っています。教員の給料を減らすと言うのは、雇う教員を減らして、大規模な授業をすることが良い答えだとは思えない。学生教員比があって、京大は10ぐらいで、私学だと20とか30で、それ以上学生教員比を大きくしても、という所はありますし、人件費はあまり削れるものではないと思っています。ではあと何削るの、で僕が一つ思っているのは、教科書をオンラインで全部タダにしようよと思っているのですが、なかなか皆さんそう思って下さらない。プログラミング授業の教科書は、自分でワードで書いて、ネットで公開しているのですけれども、70万件ぐらいダウンロードしていただいた。学生にとっては、2千円、3千円で買う教科書がタダで手に入って、しかも自分が他の人に教えるのに使えるんです。だから学ぶコミュニティを広げる中で、コンテンツは大事なんだということには気がついて欲しいなと思っています。以上です。

◎ありがとうございます。